

# Get Heart

No 28  
2004.11



## 人物紹介

「第16回大西満杯争奪鮎友釣り大会」優勝者  
糸田 正美さん

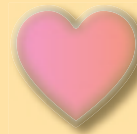
## 学校紹介

「用水路の見学を通じて地域と  
水の大切さを学ぶ」  
会見小学校

日野川「もの知りさんに聞いてみよう17」  
「人工リーフ」とは



# イベントあんない INFORMATION



南部町

## 「全国柿の種吹きとばし大会」

平成16年11月23日(祝)  
南部町農業者トレーニングセンター  
問い合わせ先.....柿の種吹きとばし大会事務局  
TEL 0859 - 64 - 2211

## 「花咲山紅葉まつり」

平成16年11月6日(土)・7日(日)  
とっとり花回廊で開催されます。  
問い合わせ先.....とっとり花回廊  
TEL 0859 - 48 - 3030

溝口町

## 「溝口町制50周年記念 伍代夏子コンサート」

平成16年11月16日(火)  
溝口町 鬼の館ホール  
入場料(全席自由)  
前売券 大人 4,000円 中学生以下 1,000円  
(当日券はいずれも1,000円増)  
問い合わせ先.....溝口町情報課  
TEL 0859 - 63 - 0991

日野町

## 「金持神社初もうで」

平成16年1月1日(祝)~5日(水)  
鳥取県日野町 金持神社  
問い合わせ先.....日野町企画振興課  
TEL 0859 - 72 - 0332

岸本町

## 「岸本町きないや祭」

平成16年11月20日(土)・21日(日)  
問い合わせ先.....岸本町教育委員会  
TEL 0859 - 68 - 3183

## Get heart プレゼントクイズ

問題：〇〇には何が入るでしょうか？

〆切 12月10日

会見小学校の子ども達は〇〇川用水路について勉強しています。ヒント：佐野川用水路は吉持五郎左衛門によってつくられました。

プレゼントをご希望の方は、官製ハガキに、クイズの答え、住所・氏名・年令・電話番号、Get heartに関するご感想を記入の上、下記までご応募下さい。抽選にて、5名様に粗品をさしあげます。当選者の発表は、発送を持ってかえさせていただきます。

〒689-3537 米子市古豊千 678

国土交通省 日野川河川事務所 ゲットハート クイズ係

## 編集後記

寒さが身にしみる季節がやってきました。これから更に寒さが厳しくなると思いますが、皆さんお身体にお気を付け下さい。さて、紙面を一新して2号目となりますが、いかがでしょうか。ご意見・ご感想をお待ちしています。今後ともご愛読をお願いいたします。

Y.T

あなたのこころを

# GET HEART

GET HEART  
第28号

発行  
・日野川への想いを語る会

編集事務局  
・国土交通省日野川河川事務所

〒689 - 3537  
米子市古豊千 678  
TEL (0859) 27 - 5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りごしない。待ちちょうけんね。



# “ホームページ拝見”

**日**野川流域の市町村のホームページを拝見しました。日野川を取り巻く美しい景観を見たり、周りの観光スポットを訪れるための情報はホームページから収集できます。いつでも利用できて手軽に情報を収集するにはあたりまえとなってきました。今回拝見したホームページは、それぞれの特徴が生かされ、たくさんの方が掲載されています。ただ見ているだけでは気づきませんが、その中には担当の方やそれに携わった方の思いや苦労がいっぱい詰まっているようです。

“日野川への想いを語る会”を構成する流域市町村の中から日野川やその周辺のきれいな写真を掲載している日野町役場のホームページ担当者の方にお話をうかがってみました。

米子市	<a href="http://www.yonago-city.jp/">http://www.yonago-city.jp/</a>
江府町	<a href="http://www.kofu-town.jp/">http://www.kofu-town.jp/</a>
日野町	<a href="http://www.town.hino.tottori.jp/">http://www.town.hino.tottori.jp/</a>
日吉津村	<a href="http://www.hiezu.jp/">http://www.hiezu.jp/</a>
岸本町	<a href="http://www.kishimoto.net/">http://www.kishimoto.net/</a>
日南町	<a href="http://www.town.nichinan.tottori.jp/">http://www.town.nichinan.tottori.jp/</a>
溝口町	<a href="http://www.mizokuchi.net/">http://www.mizokuchi.net/</a>
南部町	<a href="http://www.town.nanbu.tottori.jp/">http://www.town.nanbu.tottori.jp/</a>

**Q** きれいな写真をたくさん掲載されていますね。

**A** はい、見ていただいた皆さんに自由に使用していただける著作権フリーの写真を掲載しています。皆さんが写された写真を掲載できるコーナーもあります。自然の美しさが少しでも表現できて多くの方にこの地をおとずれていただければと思います。

**Q** ホームページについての苦労はありますか？

**A** 今は各担当者から直接、情報が掲載できるシステムを使用していますので、掲載についての苦労はありませんが掲載する内容については気をつけています。

**Q** ホームページについて大切なものはなんでしょう？

**A** やはり、掲載する内容でしょう。掲載する情報の内容がいちばん大切だと思います。そして速さや正確さです。皆さんに役立てていただける情報を正確にいち早く掲載するため努力しています。そのためには私たちの意識をもっと高めていく必要があると思います。

## 日野川の生きものたち②

### 鳥



#### コハクチョウ・マガン・カモ

日野川堰にはカモ類が飛来し、コハクチョウも飛来します。よく見ると、くちばしの模様は一羽ごとにちがっています。マガンは山陰地方に秋の深まりを告げる渡り鳥です。編隊を組んで飛ぶ姿は壮観です。

### 魚



#### タカハヤ

比較的水温の低い溪流のよどみなどにすんでいます。昆虫や藻などを食べる雑食性です。3月～7月、体を川底の砂や石の間につっこんで産卵します。アブラハヤとタカハヤが混生している川では、タカハヤの方が上流にすみず。

# 川に親しむ

## 「第16回大西満杯争奪鮎友釣り大会」

優勝者

いとだ まさみ  
糸田 正美 さん

わたべ友釣り研究会所属



糸田 正美さん

平成16年6月に、日野郡日南町で開催された「第16回大西杯鮎釣り大会」において、米子市在住の糸田さんが優勝されました。糸田さんの釣り歴は約30年。西伯町で生まれ、子どものころから川遊びをして川には親しんできましたが、鮎釣りを始めるためには17歳のころから。

鮎釣りの醍醐味について「鮎が釣れたときの「引き」の瞬間が楽しみなんです。釣りをするたびに、今度はもっともっとすごい引きを楽しみたい、と思いますね」と説明しています。また「川と鮎との駆け引きが面白いんですよ。例えばその日野川のコンディションや流れによって、針やしかけを変えなければならぬんです。それから前日にほとんどの大会参加者が下見として鮎釣りをするんですが、そのときに釣られなかった鮎がカギなんです。大会当日には、このときに隠れている鮎を探して釣るのが面白くて。それから友釣りのコツは、おとりの鮎を弱らせないでおくこと。これがポイントですね」と目を輝かせながら、鮎釣りの楽しさを語ってくれました。

糸田さんはこれまでも岸本町や西日本地区の大会で優勝した経験はあったが、当大会での優勝経験は今回が初めて。



大会風景

日野川で開催される様々な大会に参加してきて気になることが、二つあるそうです。

一つは大会参加者の高齢化。ここ数年の釣りブームで釣り人口は徐々に増えているそうですが、日野川でもルアーやフライなどの疑似餌を使った釣りを楽しむ若者が多く、鮎の友釣りの人口はまだまだ少ないとか。糸田さん自身が所属する『わたべ友釣り研究会』では鮎のシーズンに月一回、会員以外の人でも参加しての大会を行なっています。糸田さんはこれらでの交流を通じて、「若い人たちに、鮎釣りの楽しさを教えていきたい」と語っています。

そしてもう一つは、鮎の減少。「5～6年前から、昔と比べて信じられないくらい釣れなくなってきました。年々鮎が少なくなるのがとても気がかりです。また釣り上げた鮎も、以前と比べて小さく、大きな鮎がいなくなってきたみたいですね。」

この原因について糸田さんは、「ここ数年、鮎のシーズンになると日野川の川床にある石に、緑色の藻が生え出してきています。

このため鮎の餌となる苔が川床の石に付かなくなった。人間で言えば、一番の育ち盛りに当たる高校生みたいな時期に、栄養のある苔が食べられなくなるんですね。だから鮎が大きくなりません。鮎にとっては、とても育ちに悪い環境になっています」と説明しています。さらに「日野川には天然のものだけでなく養殖された鮎も放流されているけれど、稚魚を放流しても冷水病など何らかの原因で大きくなる鮎が少なくなってきているみたいですね」とも。

「普段は目に見えづらいのですが、毎年釣りを通じて日野川の水質が変わってきているように感じます」と語る糸田さん。「水質が変われば、当然のことながら生態系も変わります。生態系を変えないためにも、一人一人が川と水に対して思いやりを持ち、子どもたちが安心して川で遊び、魚釣りができるように、川と水を守っていかれたらと思います」と、日野川への思いと願いを語っています。





- 表紙「秋の一日」 -

土手に生える彼岸花やススキが、秋の静けさを感じさせていました。

第6回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Bの部 佳作 橋本 敦子さん  
撮影場所：溝口町

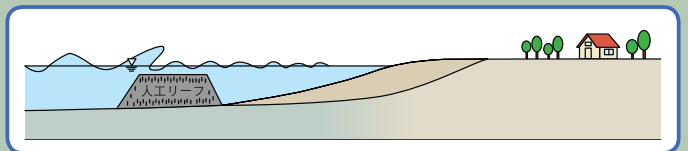
## 日野川流域 ものしり手帳

# 日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・17

## 人工リーフ

「人工リーフ」は、自然の珊瑚礁<sup>さんごしょう</sup>をまねた構造物です。沖縄の海などにみられる珊瑚礁は海岸付近で幅広い浅瀬をつくります。波は水深が浅くなると砕けて、その勢いを失います。珊瑚礁による浅瀬が沖まで広がり、遠浅になっていますから、沖の方で波が砕けることとなります。すると、波が小さい海域を広くとることが出来るので、海水浴などに利用しやすくなります。人工リーフは、このような珊瑚礁のもつ優れた消波<sup>しょうは</sup>効果を期待して開発された構造物なのです。

人工リーフは、自然の珊瑚礁の形を石やコンクリートブロックなどで再現してつくられます。つまり、海の中に広いマウンド(人工的に作った台形状の浅瀬)をつくることとなります。その結果、景観を損なわず優れた消波機能を得ることに成功したのです。また、その他にも人工リーフが魚礁<sup>ぎょしょう</sup>と同じ効果を発揮し、魚介類の生育<sup>いじゆう</sup>や蛸集(魚が集まる)効果を発揮することが知られています。



しかし、この「人工リーフ」にも欠点があります。それは、波を砕くためにはかなり大きなマウンド(人工的に作った台形状の浅瀬)をつくらなければならないことと、海面とマウンドとの間の水深によって波を砕く能力が変わるということです。つまり、干満の差が大きいところでは、利用しにくいということです。

また、水面に没した構造を有しているために、景観的には優れていますが、漁船やボートからは確認がしづらく、座礁<sup>ざしょう</sup>など海難事故の原因となることもあります。そのため現在では、人工リーフにはその存在を表す潜堤標識<sup>せんていひょうしき</sup>を設置するのが一般的となっています。夜見・富益工区に施工した人工リーフには写真のような潜堤標識灯を設置しています。



潜堤標識灯



人工

## 川で学ぼう

～川とふれあう学習～

# 「用水路の見学を通じて 地域と水の大切さを学ぶ」



南部町立 会見小学校

当時それぞれ90年以上の伝統を誇る手間小学校と賀野小学校の統合により、昭和40年に会見小学校は開校しました。児童数は平成16年4月現在で192名です。児童の理想像として「よく学ぶ子、明るく正しい子、たくましく元気な子」を掲げて教育が行われています。

### 会見小学校

会見小学校で今年10月、4年生の社会科教育として、児童31名が溝口町中祖から岸本町坂長までの間、日野川に沿って流れる「佐野川用水路」を見学しました。

この用水路は、会見町諸木から岩屋谷にかけて広がる長者原台地に流れて出ているもので、その昔、長者原には水の便が無いために水田が作れなかったことから、江戸時代初期に会見町の吉持五郎左衛門によって、用水路を引く事業が行なわれました。この事業はその後、吉持家が10代にわたって熱意をもって行い約250年間もの年月をかけて完成されました。現在では、佐野川が日野川より約30メートルも高いところを利用して昭和28年には水力発電所も整備され、また水田用水としては途中で枝分かれをして、遠く米子市五千石地区まで利用されています。

会見小学校では約20年間、毎年4年生は「郷土を開いた人々」というテーマで佐野川用水路を整備した吉持家について学習しています。用水路の見学も毎年行なわれているもので、用水路のうち約8キロメートルを徒歩で2時間かけて見学しています。



手作りの学習教材

引率を担当した三和仁志先生は見学について、「子ども達は約150メートルほどの長さの弁財天トンネルで当時の手掘りで作られた跡を実際に見て、また発電所付近では真下に日野川を見下ろしてその高さを実感しています。見学を通じて当時の人がどれだけ苦労して整備をし、会見町に水を引いたのかを感じてくれたと思います」と語っています。

佐野川と吉持家に関する学習教材は、現在同校の教務主任を現在つとめる羽田康枝先生が、今から約20年前に手作りで作られたものです。当時は佐野川と吉持家について記述された資料は町史や歴史書のような子ども達には難しい専門書しかなかったため、手書きの図解や写真を使い、読みやすく紹介した冊子を作成されたそうです。この教材は、地域学習を子ども達にわかりやすく紹介した副読本として話題になり、現在もなお地域に根ざした学習教材として活用されています。羽田先生は「現在のように暮らしが便利になると、この町が水に困っていたことを知らない子ども達が大半になりました。教材や学習を通じて地域の先人がどれくらい苦労をして水を引いてきたのか、という素朴な疑問を感じてもらいたいですね」と語っています。



用水路を徒歩で見学